

アカペラ練習再開に向けての声明文

2020年8月5日(水)
一般社団法人 全日本アカペラ連盟

はじめに

一般社団法人全日本アカペラ連盟(以下当団体)では、各大学アカペラサークルの現状をリサーチし、多くの方に相談とご協力をいただきながら、活動再開に向けてどのような提案が最適であるか検討を重ねて参りました。

結論、直近の日本全体の状況を踏まえると、
「活動再開当初からこれまでと同様にアカペラ活動を行うことは難しい」という現状です。

また、新しい生活様式に沿った上で、これまでと同様のアカペラ活動が出来るように戻していくにも、とても長い時間がかかる可能性があります。
同時に、大学生が大半の割合を占めるアカペラというジャンルにおいて、将来がある若者に新型コロナウイルス感染のリスクを、「アカペラ活動の中で」与えるわけにはいきません。
しかし、適切な感染対策を取った上で、これまでと同様にアカペラ活動を行うには、十分な距離を取ることが出来るとても広い場所で、換気を徹底するというかなりハードルの高い条件をクリアする必要があります。

上記を踏まえ、これまでと同様にアカペラ活動を行っていくための第一ステップとして、「アカペラ練習再開に向けてのガイドライン」を作成いたしました。
当団体は医療や感染症に関する専門家ではございませんが、アカペラ活動経験のある医師を含め、多くの方にご意見ご協力をいただき作成しております。
ガイドライン上に改善必要点などあれば随時ご指摘・ご協力いただけますと幸いです。
何卒宜しく願いいたします。

「アカペラ練習再開に向けてのガイドライン」は下記を目的として作成したものです。

1. 所属する大学等に活動再開・練習再開の許可を頂くこと

当団体が作成・発行した、
「アカペラ活動(グループ練習・サークル活動)における新型コロナウイルス(COVID-19)対応ガイドライン」(2020年6月22日)
「アカペラ練習再開に向けてのガイドライン」(2020年8月3日)
上記ガイドラインは、主に当団体の会員サークルに向けて作成されたものであり、サークル活動再開・練習再開に向けて「所属する大学等に活動再開の許可を頂く」ことを目的として作成されています。

ガイドラインを活用した具体的なサポートや、証明等が必要な際は当団体までご連絡下さい。

2. アカペラ練習において「グループ内でのクラスター」を起こさないこと

現在、新しい生活様式を目指した政府方針の中で、スポーツや文化芸術などのさまざまな活動が再開し、それぞれの対策を行っています。

アカペラ界限においては、練習の際に複数人が集合して練習をするという特徴があり、中には複数のグループを掛け持ちしている人や、アカペラ以外の活動をしている人も多く存在します。よって、連動して関わる人が必然的に多い「アカペラグループ内でのクラスター」は絶対に避けなければならないため、

アカペラ練習は「厳格なコロナ感染対策のもと」行い、練習で集まったメンバー間・友人間で感染が広がる状態を作らないことが必要であると考えます。

3. 「練習外の時間」が最も危険とされていることの周知

当団体は、「アカペラ練習再開に向けてのガイドライン」を元にした、徹底的に3密を避けた活動により、アカペラ練習中の感染リスクを減少させることができると考えております。

ところが、政府自治体の発表や報道等からの情報を整理すると、「練習外の時間」に多く存在するリスクに対しての意識や対策が、疎かになっている傾向にあります。

特に練習後などの飲酒を伴った会合は、クラスター発生の温床とも言われ、居酒屋や個人宅での会合なども注意を払う必要があります。

当団体では、これらの「練習外の時間」でのクラスター発生の要因が、「アカペラ活動」であると認識されることにより、今後のアカペラ活動再開が再び止まってしまうことを懸念しております。

しかし、アカペラ練習外の行動に対する対策については、当団体では明確に言及出来ないため、「練習外の時間」にも感染のリスクが十分にあることを呼びかけ、アカペラ練習前後での不要不急の会合は可能な限り避けていただくよう継続してお願いして参ります。

4. 地域ごとの環境の違い

本ガイドラインは、全国的に一律に設定されたガイドラインではなく、特に当団体に所属している「関東近郊の大学アカペラサークル」へ向けて作成したものです。

よって、東京を例とした「最も厳格な対策例」とご認識ください。

東京は、感染者数の多さ・人口密度の高さ・練習場所確保の難しさなどから、その他の地域と比較しても「厳格な感染防止対策」が必要であるためです。

一方で、感染者の少ない地域については、本ガイドラインを元に独自にご判断いただけますと幸いです。

また、当団体の会員サークル以外の全国のアカペラサークルや、個人でアカペラ活動をする方々に関してましても、これらの資料をご自由にご利用ください。

ガイドラインの運用に関しまして、詳細な点にご質問などありましたら TwitterDM、または HP のお問い合わせからご連絡ください。